

四万十川の美しい自然が残る「黒尊溪谷」

清流通信の読者の皆さん、こんにちは。今回は、「四万十川の日」特別号として、清らかな溪谷のせせらぎやブナの原生林など、四万十川の昔のままの自然が残る黒尊溪谷についてご紹介します。

西土佐村口屋内大橋のたもとで四万十川本流と合流する黒尊川。この黒尊川に沿って県道、黒尊スーパー林道を車で1時間程度走ると、水と岩と森が絶妙に組み合わせられたすばらしい景観が続く「黒尊溪谷」に着きます。黒尊溪谷は、標高1226mの三本杭山麓を源にする清流で、“土佐の名水40選”、“四国のみずべ88カ所”にも選ばれています。そして、その水質は、四万十川支流の中でも最もきれいで、昔の四万十川本流を思わせるほどの透明度です。

黒尊溪谷には、八面山頂上まで約2時間の本格的な登山ルートがあり、春の新緑、秋の紅葉が美しく、四万十川の四季の自然が楽しめます。県鳥ヤイロチョウの生息地でもあります。

また、黒尊溪谷源流域には、約300haの暖温性の自然林が広がる国有林があります。樹齢200年を越えるモミ・ツガの針葉樹に、四国最西南の分布となるブナなどの広葉樹が混生する原生林です。この原生林は植物の種類が多く、かつ変化に富んでいることから学術的価値が高いということで、四万十森林管理署が「黒尊山自然観察教育林」として、施業を制限し保護しています。

さらに、今年の3月31日に、この国有林のうち約100haが、高知県から愛媛県にかけての海岸沿いに位置する「足摺宇和海国立公園」に追加指定されました。

足摺宇和海国立公園HP：<http://www.sizenken.biodic.go.jp/park/sanyoshikoku/ashizuri.htm>

●四万十川流域振興室では、四万十川条例の第11条に定める、四万十川を保全するための方策を重点的に行う「重点地域」の指定に向けて作業をしています。黒尊川流域については、地域の生活と保全の調和を継続していく、人と自然の「共生モデル地区」として指定し、四万十川流域の目指すべき姿として、その保全を図っていくことを予定しています。



▲黒尊川源流付近



▲源流域に広がるブナ林

Topics

第53回高知市夏季大学で四万十大使・山村レイコさん講演

夏の夕べに学ぶ「高知市夏季大学」が8月1日◎から始まります。今年は、国際ラリーストで四万十大使でもある山村レイコさんも講師陣に加わり、『大地からのメッセージ 今、どう生きる』と題して、最終日の8月22日◎に講演の予定です。ぜひこの機会に受講してみませんか。

■会場／高知県立県民文化ホール(オレンジ) ■時間／午後6時～7時30分

●問い合わせ／(財)高知市文化振興事業団企画事業課 TEL.088-883-5061